

I-2

よくある女性の症候の診かた

頭痛がする

渡邊由佳¹⁾ 五十嵐久佳²⁾

1) 獨協医科大学日光医療センター 神経内科 科長
2) 富士通クリニック 頭痛外来担当

Point **1** 片頭痛の有病率に性差があることを理解できる。

Point **2** 片頭痛とは何かを理解し、診断ができる。

Point **3** 月経関連片頭痛を理解できる。

Point **4** 女性ホルモンの変動と月経の関連について理解できる。

はじめに

片頭痛は一次性頭痛の代表的疾患であり、有病率が高く、日常生活に重大な支障をきたすため、社会経済に与える損失も大きい。Global Burden of Disease Survey 2010の調査では、片頭痛は有病率の高い疾患の3番目、また日常生活に支障をきたす原因の7番目に位置づけられている¹⁾。日本での頭痛の疫学調査によると、15歳以上の日本人の片頭痛有病率は、疑い例も含め8.4%と報告されている²⁾ (図1)。性別でみると、成人男性の3.6%、成人女性の12.9%が片頭痛を有すると考えられ、女性の有病率は男性の3.6倍と高い。女性の年代別でみると30～40歳代がピークで、30歳代の5人に1人が片頭痛である (図2)。ここでは典型的な症例を通して、女性に多い片頭痛の特徴を理解し、診断ができるよう学んでいく。

1. 片頭痛について

特徴

頭痛は一般的に片側性・拍動性で、中等度から重度の強さであり、日常的な動作により頭痛が増悪することが特徴である。発作は4～72時間持続する。随伴症状として、悪心・嘔吐、光過敏・音過敏を伴う。片頭痛はこのような特徴、随伴症状を持つ発作を繰り返す頭痛で、頭痛発作の前に閃輝暗点が出現する視覚性前兆を伴う患者もいる (図3)。

診断

今までの片頭痛の診断は、国際頭痛分類第2版 (ICHD-2)の診断基準³⁾に従って行うように勧められていたが、2013年に国際頭痛学会から3-beta版⁴⁾が発表された。現在、日本頭痛学会国際頭痛分類第3 beta日本語版作成委員会によって、日本語への翻訳作業が行われている (表1)。今後はこれに準拠し、診断するよう勧められる。

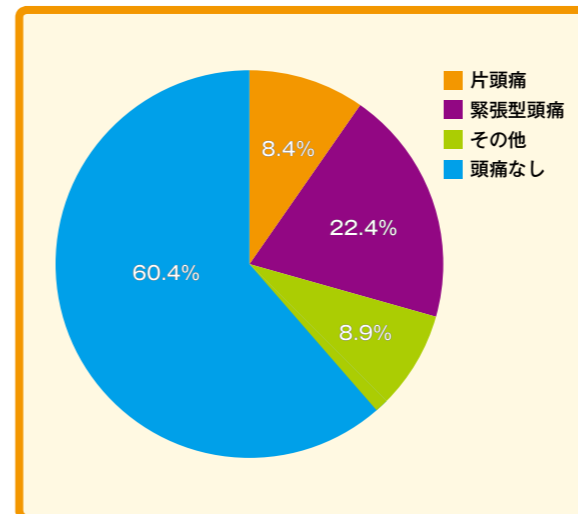


図1 一次性頭痛の有病率*
*4029人を対象。

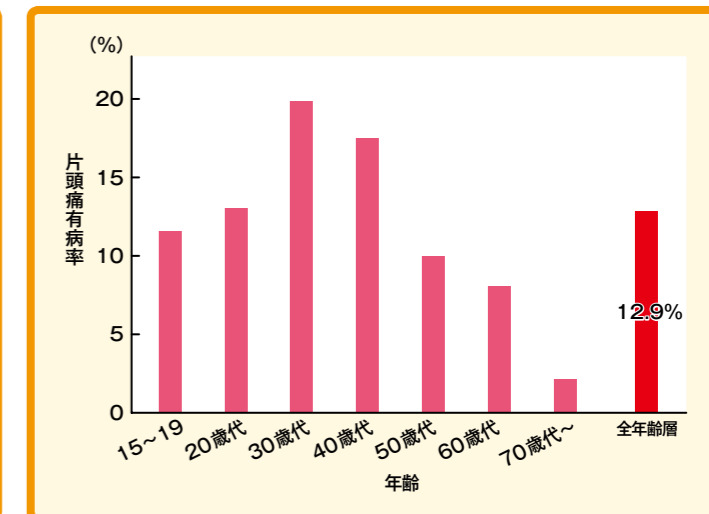


図2 片頭痛の年代別有病率 (女性)

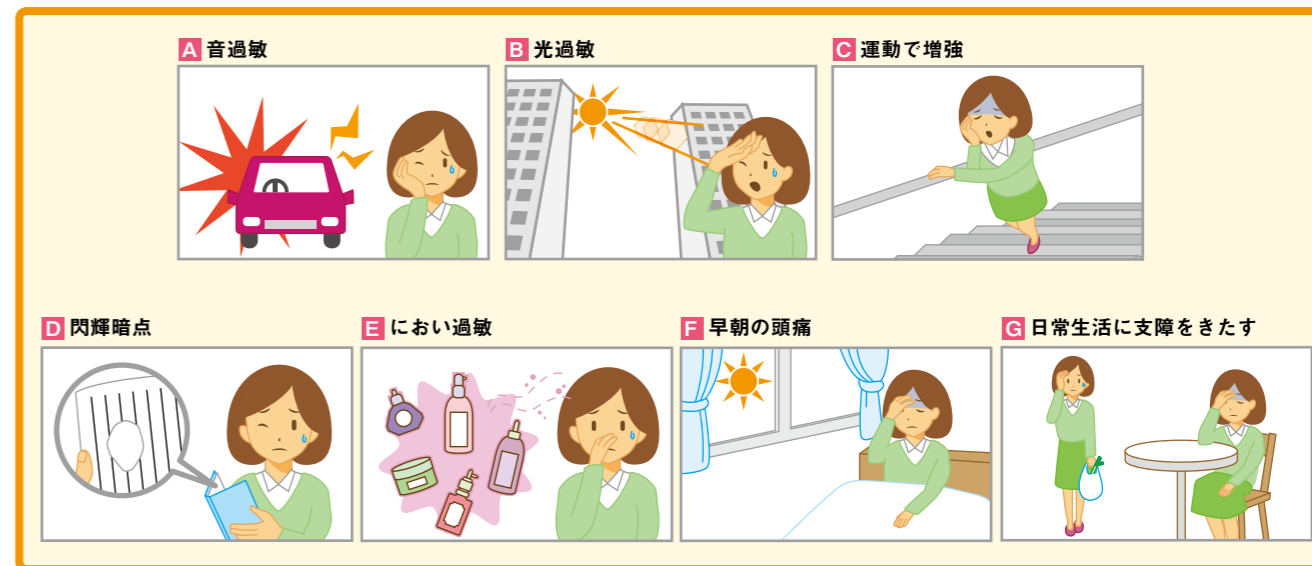


図3 日常生活でみられる片頭痛の特徴と随伴症状

表1 「1.1 前兆のない片頭痛」の診断基準 (国際頭痛分類第3 beta版, 国際頭痛分類第3 beta日本語版作成委員会暫定版)

A. B～Dを満たす発作が5回以上ある
B. 頭痛発作の持続時間は4～72時間 (未治療もしくは治療が無効の場合)
C. 以下の4つの特徴のうち、少なくとも2項目を満たす
1. 片側性
2. 拍動性
3. 中等度から重度の頭痛
4. 日常的な動作 (歩行や階段昇降など)により頭痛が増悪する、あるいは頭痛のために日常的な動作を避ける
D. 頭痛発作中に少なくとも以下の1項目を満たす
1. 悪心または嘔吐 (あるいはその両方)
2. 光過敏および音過敏
E. 他に最適なICHD-3の診断がない